



HFHJ Newsletter

ハビタット・ジャパン ニュースレター

第12号 2009年1月発行

新年ご挨拶

新年明けましておめでとうございます。
皆様のご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げます。

ハビタット・ジャパンも2003年の法人化以来、お陰様で今年で6年目を迎えました。昨年は特に企業との取り組みに力をいれました。海外建築ボランティアプログラムでは、ブルデンシャル・リアルエステート・インベスターズ社の会社行事として組み入れられ、そして一般個人参加者を全国募集した地球の歩き方マガジンとのコラボレーションといった新たな試みを実施。また国内においてもハビタットのグローバルパートナーであるシティグループとの学校修繕活動、ダウケミカルカンパニーよりキャンパスチャプターへの奨励金による援助プログラム等、これまでにない大きな可能性を見出すことが出来ました。今年はどの方面でも大変厳しい状況ではございますが、ハビタット・ジャパン理事会及び事務局は新体制で、国内活動の再構築、ファンド・レイジングのプログラム強化、そして11月にタイで予定されておりますジミー・カーター・ワークプロジェクトへの活発な参加等、色々な挑戦をしたいと思っております。2009年も何卒よろしくお願い申し上げます。

理事長 芹澤 充子



HABITAT FACTS (2008年12月現在)

◆ハビタット創設以来の総建築・修繕軒数：30万軒 ◆ハビタットの家に居住する人：150万人以上 ◆アジア太平洋地域では21分に1軒のペースで住居建築・修繕 ◆08年海外住居建築活動（GV）への日本からの参加者数：776名（48チーム）、建築軒数：192軒 ※渡航国：第1位タイ、第2位フィリピン、第3位モンゴル ◆ハビタットCEOジョナサン・レックフォード氏来日。講演会（上智大学）を開催 ◆企業2社が活動参加（GV参加：17名、国内事業参加：15名） ◆「地球の歩き方」との共同企画で一般募集チームをタイに派遣（17名）

ハビタット・ジャパン初！企業チームがタイでの住居建築活動に参加

日本から海外派遣される初めての企業チームが、タイ北部のチェンマイで住居建築活動に参加しました。今回参加したのは、ブルデンシャル・リアルエステート・インベ

スターズ（本社：アメリカ）の日本支社とシンガポール支社の社員をはじめとする17名で結成した通称「PREIチーム」。企業チームということもあり建築活動が3日間と限られていましたが、この3日間のPREIチームの主な作業は、土台建設を除くセメント作り、土砂や



石、セメントのパケツリレー、壁作りのためのブロック積みとブロック壁作り、汚水処理タンクのための穴掘りとなりました（土台はPREIチーム到着前に現地大工により完成）。

今回、ホームオーナーとなるWandee Sangpayoongさんと彼女の家族は、木造の窓がなく、壁さえ腐って崩れ落ちている家に居住。家政婦として働くWandeeさん、大工として働く夫のSomnuekさんの収入は、合わせて7500バーツ程（US\$244）。十分な寝室スペースがないため、29歳になる息子は毎晩リビングで

眠り、18歳になる娘は夜になると近所に住んでいる親戚の家に寝泊りに行っていました。そのような状況の中、Wandeeさんは自分の能力で支払うことの出来る、十分なスペースのある家で、家族がそろって暮らすことを夢見てハビタットに申し込みました。その夢を叶えるお手伝いすることになったのが、PREIチーム。Wandeeさん家族の近所での評判はとてもよく、友人達や近所に住む多くの大工さんたちもWandeeさん家族のため、ボランティアとしてPREIチームとの建築作業に加わりました。



今回のチームリーダーであるAdrian Chuaさんからは、「参加した全員がとても楽しんでいた。それ以上に大切なのは、この経験がとても充実していて満足できたことだ。」との



感想を頂きました。PREIチームは帰国後、「ハビ人集会（ハビタットが毎月第1火曜に開催しているイベント）」の中で、活動報告と企業がハビタットの建築活動に参加する意義についての紹介も行いました。

※ハビタット・ジャパンからのボランティアは、学生や外国人語学教員が大半ですが、企業の社員研修や組織強化のためのプログラムとしても提供しています。



＝ ブルデンシャル・リアルエステート・インベスターズについて ＝

ブルデンシャル・リアルエステート・インベスターズはブルデンシャル・ファイナンスの不動産部門を世界中で行っており、本部はアメリカ合衆国、ニュージャージー州のニューアークに置かれている。アジア地域では、1994年からシンガポールのオフィス事業を手がけてきた他、顧客を代行してシンガポールや香港、日本、マレーシア、フィリピン、インドネシア、韓国、中国、タイ、インドで投資を行っている。



一般募集チーム「Japan Hope Builders」がバンコクでの活動に参加 ～充実の8日間～

伊藤 礼 (チーム同行スタッフ)

ガイドブックで有名な地球の歩き方、旅行会社STA Travelとハビタットの3団体が共同企画した「Japan Hope Buildersチーム(添乗員1名を含む18名)」が2008年8月、タイ・バンコクで建築活動に参加しました。参加者全員がハビタット初体験。しかも全国から集まったメンバーの殆どが初対面同士という状況で、初日は多少の緊張や戸惑いもありましたが、作業が始まるとすぐに仲良くなり、まるで全員が以前からの知り合いのような雰囲気になっていました。

今回のホームオーナーであるSupapornさん(歯科助手)と夫のSomkierdさん(工場勤務)そして6歳になる娘の家族3人は、トタンと薄いベニヤ板で1部屋の小屋に暮らしていましたが、十分なスペース、そして安心して暮らせる家を求めてハビタットに申し込みました。

作業現場はバンコク市内のホテルから車で1時間ほど離れた郊外Pattun Thani。建築現場に着くと、更地に深さ1.5m程度の穴が9箇所掘ってあり、まさに「これから土台の土台を作る」という状態で、初めての作業は、大雨で溜まった水を穴から引き出す作業。連夜大雨が降ったため、雨水をくみ出す作業はチームの日課となりました。その他、ワイヤーでの土台の基礎組み、枠組みに手作りのセメントを流すなどの作業を行いました。4日半という短い日程と連日の大雨の影響の為、家を完成することは出来ませんでしたが、支柱も立っていない更地から家作りを始めて、壁を1面終わらせることができました。



土台作りが中心となった建築作業。「最後まで家を完成させたかった」と、殆どのメンバーが思ったはず。しかし、家もチームもゼロから作り始めて、短期間でこまごまの家・チームを築き上げたのは、参加者一人ひとりの努力と気遣いがあったからこそ。チームも家も良い土台がないと強い家・絆は作れません。

その土台作りをゼロから始めたチームメンバーの、「セメントも道具も、何もかもが手作りで驚いた。でも、もし手作りじゃなかったら、この床や土台に、どれだけの基礎やワイヤー、いろいろな大切なモノが埋められているか知らなかった。手作りだからこそ、自分達が単なる『家』ではなく、なにか、もっと『プラスアルファ』な部分を築いているんだと感じました。」という言葉がとても印象的でした。

ハビタットは今年も、地球の歩き方を通して一般募集チームを募集しており、2月にバンコクでの活動を予定しています。(詳しくはホームページで!)



ワールド・イベント「GLOBAL BUILD IN INDIA」(2008年9/27-10/6)

太田 歩 (チーム同行スタッフ)



インドで行われたワールド・イベントに、9名のボランティアが参加してきました! 今回のイベントは、アメリカ、カナダ、オーストラリア、シンガポール、韓国、日本の6カ国から70名以上のボランティアが参加し、一斉に14軒の家を建てるという大きな建築イベントとなりました。年齢も職業も異なるボランティアたちが、「ハビタットと共に家を建てる」という一つの目的のために集まり、共に活動してきました。活動を行ったBhalaswa 居住地区はデリーの北西端に位置し、古いゴミ埋立地に囲まれています。家々のすぐ側にもゴミが堆積し、溝には汚水が溜まり、常に異臭がたちこんでいました。1万家族以上がひしめきあう

ように暮らしているため、家同士が隣接しており、建築も非常に限られた空間で行われました。建築活動は、1チーム5-6名に分かれ行われましたが、チームは国に関係なく構成され、初めは距離のあった他国からのボランティアとも、日を重ねるごとに仲良くなり、最終日には別れを惜しむほどの関係が築かれていました。

初めてワークサイトに着いた時は見るもの全てに日本との違いを感じ、驚くばかりでした。しかしワークを通じホームファミリーや地域の人々とふれあううちに「人間として、大きな違いはない」と思うようになりました。私たちと同じように食事や洗濯、子育てをし、笑って泣いて遊んだりする。そこに彼らの生活があるのです。また他国の



ボランティアと一緒に活動するなかで、違う背景を持った人たちが「家をつくる」というひとつの目標で繋がっていると感じました。そんな多くの人の手に触れたレンガが集まり一つの家ができて、そこで家族の新たな生活が始まるということを嬉しく思います。

(日本女子大学 皆川智子)

今回は3回目のGVでしたが以前の2回とは異なる素敵な経験でした。一番印象にあるのは人との「出会い」です。CC(学生支部)でGVに行くのとは異なり日本のメンバー同士も初めて、そして現地では世界各国から来たボランティアと共にワークをする。それぞれ住む所も、年齢も職業も、思いや考え方も、宗教も違う。でも皆同じ目的を持ち同じ場所に集い共に汗を流す。これはとても貴重な体験でした。このイベントに参加して改めて人の力、そしてこれだけ多くのボランティアを集めることのできるハビタットのすごさを感じました。

(関西大学 岡村匠)





シティグループ「Global Community Day」～学校施設修繕作業に参加 @那須塩原～

伊藤 礼・山崎 顕太郎（チーム同行スタッフ）

ハビタットのグローバルパートナーであり、世界100カ国以上で、約2億の顧客口座を有する世界有数のグローバルな金融機関、シティグループ。そのシティグループが世界同日一斉に行うボランティア活動「グローバル・コミュニティ・デー」が2008年11月8日に開催されました。ハビタット・ジャパンはシティグループの日本の持ち株会社である日興シティホールディングスとの協働で、途上国の農業リーダー育成を行う学校法人アジア学院（<http://www.ari-edu.org/>）にて、ペンキ塗りやコンクリート打ちなど学校施設修繕活動を実施しました。

シティ参加者15名は、アジア学院のある栃木県に向けて東京を7時に出発。アジア学院に到着後、自己紹介や簡単なオリエンテーションを受けて、早速作業を開始。倉庫の床にセメントを流しこむ作業や、屋外スタジアムの座席掃除、ペンキ塗り、薪割りや地下水



道管を探す作業を終日行いました。

アジア学院の研修生やボランティアの皆さんが大切に育てた食物で調理された、美味しいランチを皆でいただいた後、ハビタット・ジャパンとアジア学院についての概要説明やアジア学院内の見学ツアーも行われました。大自然の中での作業は、普段東京のオフィスで働いていらっしゃる皆さんには、よいリフレッシュにもなったようです。



今後もシティグループ、そしてアジア学院とのより深いパートナーシップを築いていきたいと考えています。なお、この「グローバル・コミュニティ・デー」の活動には、株式会社ルール（<http://www.rule.co.jp>）の映像カメラマンが同行し、活動の様子を撮影。その映像は、ルールが運営するインターネット放送局「POLOS」やハビタットのHPなどで放映を予定しています。

ダウ・ケミカル社 助成金 ～青少年育成プロジェクト～

この度、ハビタットのグローバルパートナーであるダウ・ケミカル社のご協力により、学生住居建築ボランティアの青少年育成の促進と国内啓発活動の促進を助成目的とした支援をしていただくことになりました。選考の結果、助成の対象となったのはSHANTI SHANTI（青山学院大学）、ハビタットMGU（明治学院大学）、Rits Habitat（立命館大学）から2チーム、計4チームで、2009年2～3月にそれぞれがGV活動を実施し、4月以降ダウ・ケミカル社（東京）にて活動報告および申請時の活動計画に基づいた他大学や地域コミュニティ等での啓発活動を行うことになっています。



緊急災害支援 ～ミャンマーサイクロン、中国・四川大地震～

2008年5月に起きたミャンマーサイクロン「ナルギス」と中国・四川大地震への災害支援のため、多くの方にご支援いただきました。ハビタット・ジャパンでは2008年12月末日を持ちまして、義援金の受付を締め切らせていただきました。たくさんのご支援ご協力、ありがとうございました。ミャンマー・中国では次のように、支援活動が進んでいます。



＜ミャンマー＞ 共同パートナーNGOのWorld Concernと共に、エーヤワディー川デルタ地域での住居復興作業を進めています。2009年初旬までにWorld Concernと共同で400軒の住居建築を予定し、建築作業を進めています。

＜中国＞ 中国・四川大地震被災者に対する住居建築・修繕初活動として500万USドルのキャンペーンを立ち上げ、被害が最も大きかった四川省での活動を行っています。初動段階では1,000世帯への住居建築を目標としていますが、住居を震災で失った何千世帯への住居建築・修繕活動も視野に入れています。

寄付・助成金リスト（2008.6.1-12.24）

みなさまのご支援は、「誰もがきちんとした場所で暮らせる世界」実現のために使わせていただきます。ご支援ありがとうございました。（敬称略・順不同）

日付	寄付者名	支援国指定	金額
6月6日	廣瀬 雅子	中国・ミャンマー	¥3,000
6月6日	カトリック・イエズス会	中国	¥50,000
6月9日	佐藤 文彬	中国	¥30,000
6月16日	日光市立今市中学校	中国	¥10,000
6月17日	吉田 みどり	中国	¥5,000
6月17日	吉田 みどり	ミャンマー	¥5,000
6月17日	NGOサポート募金 配賦金	中国	¥29,880
6月26日	Habitat KUIS	中国	¥58,392
6月26日	Habitat KUIS	ミャンマー	¥40,134
6月30日	日本郵船グループ	中国	¥29,580
6月30日	日本郵船グループ	中国	¥1,529,950
6月30日	ウメタ マサヒロ		¥29,700
6月30日	同志社 ハビタット		¥40,500
6月30日	福井 光夫		¥5,000
6月30日	藤井 信也		¥3,000
7月2日	立命館大学		¥40,000
7月8日	JCC関西 伊藤 篤史	中国	¥50,090
7月10日	廣瀬 雅子	ミャンマー	¥1,000
7月11日	立命館大学 国際「ラティサル」TOMSAWYER		¥2,095
7月15日	日本郵船	中国	¥220,100
7月17日	宗教法人 カトリックイエズス会		¥20,000
7月23日	特定非営利活動法人国際協力NGOセンター	NGO特・ト募金 配賦金	¥29,986
7月28日	特定非営利活動法人国際協力NGOセンター	NGO特・ト募金 配賦金	¥107,709
7月31日	ユナイテッドビーブル		¥13,194
8月13日	国際交流協会・新中野ハウス	中国・ミャンマー	¥10,000
8月20日	特定非営利活動法人国際協力NGOセンター	NGO特・ト募金 配賦金	¥8,471
8月28日	大妻高等学校 生徒会会長山田理紗子		¥19,005
9月30日	樹しガメント		¥3,000
10月9日	マスターピース	フィリピン	¥88,683
10月23日	セルフォード・ストリート有志一同		¥4,252
10月27日	渡辺 雅之		¥1,000,000
10月27日	トビー 国際「ラティサル」		¥35,416
10月31日	樹しガメント		¥6,300
11月13日	特定非営利活動法人国際協力NGOセンター	NGO特・ト募金 配賦金	¥2,000
12月1日	樹しガメント		¥1,500
12月16日	西那須野幼稚園	ミャンマー	¥19,920
12月17日	読売新聞（高橋）		¥901



ボランティアスタッフ紹介

ハビタットの活動をオフィスボランティアとしてサポート頂いている皆さんをご紹介します。ハビタット・ジャパンの取り組みは、彼ら「縁の下の手持ち」の存在があってこそ成り立っています。皆さん、日頃のご協力ありがとうございます！そしてこれからもよろしくお願いいたします！！

昨年8月一般募集チームのタイGVに参加して以来、ハビタットに興味を持ちオフィスでお手伝いさせて頂いています。スタッフ人数の少ないハビタット・ジャパンですがハビタットに関わる人は多く、その繋がりやの強さに感動します。あの楽しいGVもハビタットスタッフさんの東京でのお仕事や、たくさんの人の協力によって出来上がっているのだということに気づけたのは大きな成果です。（佐藤裕美さん／学生）

07年8月から、週1日ハビタットに係わっております。今まで、ボランティアと名の付く事をしたことがありませんでしたので、全く想像できない世界でした。折々お会いするみなさまの、生き生きした目に接して非常に感動させられながら、現在に至っております。微々たるお手伝いですが、今後も頑張っていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。（内田三智子さん）

建築学科で勉強中のため、ハビタットが建築活動を行っていることに惹かれてオフィスボランティアを始めました。ボランティアをする以前は「ボランティアとはしてあげるともの」という考えでしたが、実際にしてみると「ボランティアさせてもらっている」という考え方に変わってきました。（下平瑠衣さん／学生）



イベント報告

お笑いコンビ、「すっぽん大学」（学さん、ウエルカム大助さん）の呼びかけにより賛同頂いたお笑い芸人さんによるチャリティお笑いライブ「はとライブ」が昨年11月28日に開催されました！ 関東キャンパスチャプターによる2006年のバングラディッシュイベントをきっかけに始まったハビタットと「すっぽん大学」のコラボレーション。11回目となる今回の「はとライブ」には、平日にもかかわらず84名のお客さんが駆けつけて下さり、場内は大変な熱気に包まれました。「はとライブ」は面白いだけじゃない、お客さんも、お笑い芸人の皆さんも、皆が温かな笑いに包まれる、そんなライブとなりました。収益金84,000円から経費30,000円を引いた支援金(54,000円)につきましてはハビタットジャパンを通して海外建築活動資金として活用させていただきます。ご支援ありがとうございました。



TWP報告 & 次回開催告知

ハビタット・ジャパンが開催する「Travelers with a Purpose ; ハビ人集会」。ハビタットやボランティアなどに関わる「ハビ人」たちが、毎月第一火曜日に集まり、気軽に情報交換などを行うアットホームなイベントです。12月のハビ人集会では、UTハビタット企画の輪島土蔵プロジェクトの報告とハビタットジャパン初の企業チームによるチェンマイGVの報告が行われました。毎回チームごとに違うGVストーリーを開けるのも魅力的。参加するだけの観光旅行では物足りない...この旅に関わるスタッフや参加ボランティアなどの「ハビ人」と出会い、この特別な旅について語り合ってみませんか？まだ、ハビタットに関わったことのない人も大歓迎です！次回のハビ人集会は2月3日（火）19:00～高田馬場Ben's Cafeにて行います。詳細はホームページにてご確認ください。是非、お友達をお誘いの上ご参加ください！



事務所移転のご案内

この度、当団体は2月16日（月）より下記へ移転し業務を行うことになりました。今後ともより一層のご指導とご支援を承りますようお願い申し上げます。※なお、「URL」および「Email」はこれまで通り変更ありません。

2009年1月吉日

新所在地：
〒160-0023 東京都新宿区西新宿4-17-3
ベルパークシティ西新宿 217号
Tel: 03-6304-2543 Fax: 03-6304-2544
URL: www.habitatjp.org
Email: info@habitatjp.org

発行人：芹澤 充子
編集人：山崎 顕太郎、伊藤 礼、太田 歩、佐藤 裕美

